

事業転換に伴うイメージ刷新に向けて商標を取得 「やりたい仕事に繋げる」ため、自社と従業員に向き合い続ける

事業内容

1988年設立
自動車部品販売・自動車整備・自動車コーティング事業

知的財産権と内容

商標第5102756号	バルカ
商標第6397647号	クリンシア (\$Cleanxia)
商標第6631979号	クリンシア (\$クリンシア\CLEANXIA)
商標第6709752号	テックプラス
商標第6763744号	ホクショー

(2024年8月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 清水 誓幸さん

20年前を転機にヨーロッパ車の部品販売と 整備事業を開始

当社は1988年、自動車リサイクル業者として清水代表が創業。主に中古車販売業者や整備業者と取引を続けていたが、20年ほど前にアフターマーケットパーツを取り扱わないかと持ちかけられたことをきっかけに、ヨーロッパ車専門の部品販売や自動車整備、コーティング事業者へと転身した。

アフターマーケットパーツとは、既存車種の修理やメンテナンスを行うための部品のことで、アメリカやヨーロッパでは一般的に普及しているもの。整備に関しては、ヨーロッパ車を中心に、丁寧な診断で根本的な原因を追求し、重整備を含む整備・メンテナンスサービス『テックプラス』を提供している。「自社がやりたいことをやる」をモットーに、業界では難しいと言われる「整備」の分野でも果敢にチャレンジすることを心がけているという。

事業転換に伴うイメージ刷新の一環で 商標登録に取り組む

事業内容を転換するにあたり「顧客との関係性や事業スタイルを見直すためにも、従来の社名のイメージを一新したかった」と清水代表は話す。そこでブランドネームとして『バルカ』という名称が生まれた。英語やイタリア語で“仲間（集う）”を示す言葉『バル』と、“カー（車）”を意味する『カ』が由来である。

また、元々清水代表は、経済産業局で開催される知財に関するセミナーを積極的に受講していたため、会社や事業のイメージを効果的に打ち出すには商標登録が重要であることを認識していた。そこで改めて経済産業局に相談したところ、発明協会（現INPIT北海道知財総合支援窓口の運営事業者）の紹介を受けた。

専門家に依頼する経費を削減すべく、当時は清水代表自ら協会に何度も足を運び、書類作成や手続きに関するレクチャーを受けた。本来ならば労力が必要とされるが、コツコツと計画を立てるのが好きで勉強熱心な清水代表の気質も相まって、まったく苦には感じなかったという。

取引先との円滑な関係づくりにも 知財は役立っている

当社では事業転換を機に、顧客との信頼関係を対等に築いていくための取引規定を明確に設定した。とはいえ自社のルールに基づいた提案を行うには、事業やサービスにおける他社との差別化や強みが必要だ。その点、知財の存在は営業活動の上でも、企業の信頼性を高める一助となっている。他にも、大企業から「御社の商標を使用するかもしれない。その時はライセンス料を支払わせてほしい」と連絡を受けたことがあり、権利の価値を実感したという。また、清水代表は「会社経営においては、将来的に何をやりたいか、どこまで事業を発展させるかをイメージすることが重要だ」

と考えているというが、知財の出願・取得は会社の現状を知り、市場での需要を踏まえた事業展開を行うきっかけにもなる。現在は知財の活用を含め、自社ならではの経営戦略の実現を目的とした横断的な部署「経営企画室」を設け、さらなる発展を目指している。同部署は専門のファシリテーターが顧問を務め、そこから信頼できる弁理士にも縁が繋がったそうだ。今後社員、ひいては会社を守るために、商標登録をはじめ知財を効果的に活用していく方針である。

知財取得における苦悩



「初めて知財を取得するまでには勉強や準備が必要だったが、発明協会等の専門家のきめ細やかなサポートがあったため、特段大変だと思ったことはない」と清水代表は話す。

一方で、『パルカ』の商標登録後、実際の売上に繋げるまでには苦勞が多かったという。特に2011年の東日本大震災により売上は大打撃を受けたが、「逆にこのピンチを変革のチャンスだと考えよう」と諦めずに事業

の開拓に取り組んだ。その後は着実に売上を回復させ、現在も12年連続右肩上がりの業績が続いている。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「知財取得は、諦めないことが大切だ」と清水代表は話す。「自身も様々なことにチャレンジする中で、成功しなかったこともたくさんある。しかし、やりたいことのビジョンを実現するためには、投資の先に何を求めているのかを強く考え、前向きに動かなければならない」と続けた。

ただ「こういうものが欲しい」という気持ちだけでは、「経営」には及ばない。目的は何か、それを使って何がしたいのか等、しっかり展望を検討することが重要だ。その上で「知財にどのような使命と責任を持たせるかを考えながら取得に取り組む必要がある」とも併せて語った。



ユニークな社名のロゴも入った、企業の外観



『パルカ』のロゴもシンプルながら車のフォルム等にこだわりが見えるデザイン



知的財産活用のポイント

従業員を想う気持ちが 事業を転換する一歩に

長年続けてきた事業を一新し、名称も新たに新規開拓に乗り出した清水代表。その行動力の源には「働く人たちのウェルビーイング（心身の健康）を守りたい」との想いがある。自動車整備士である従業員をプロとして尊重しており、「適切な労働時

間の中で技術を磨くことに集中できるような環境を作りたい」と語った。また、「ヨーロッパ車を専門とする中でアメリカやヨーロッパなどの働き方やライフスタイルを知る機会も多いが、そうした海外の文化から学べる部分も多い」と清水代表は話す。こうした信念は従業員にも共有され、近年は技術を追求したいと考える若い世代の入社も増えているという。会社や従業員に向き合う経営者としての熱意が、堅実な知財取得にも貢献した。

COMPANY DATA

取材：2024年8月

企業名：株式会社北翔 所在地：北海道江別市江別太305-15

URL：<https://s-hokusyoo.com/> 創業：1988年 資本金：2840万円 従業員：40名

